

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成26年5月15日
【四半期会計期間】	第16期第3四半期（自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日）
【会社名】	株式会社きちり
【英訳名】	KICHIRI & Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 平川 昌紀
【本店の所在の場所】	大阪府中央区安土町二丁目3番13号
【電話番号】	06（6262）3456（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経営管理本部長 葛原 昭
【最寄りの連絡場所】	大阪府中央区安土町二丁目3番13号
【電話番号】	06（6262）3456（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 経営管理本部長 葛原 昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第3四半期 累計期間	第16期 第3四半期 累計期間	第15期
会計期間	自平成24年7月1日 至平成25年3月31日	自平成25年7月1日 至平成26年3月31日	自平成24年7月1日 至平成25年6月30日
売上高(千円)	4,668,793	5,150,088	6,224,982
経常利益(千円)	446,497	390,266	605,244
四半期(当期)純利益(千円)	257,012	232,598	344,386
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金(千円)	371,523	381,530	380,191
発行済株式総数(株)	1,698,600	10,550,400	1,750,400
純資産額(千円)	1,252,816	1,538,862	1,354,694
総資産額(千円)	2,789,384	3,068,589	3,034,054
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	26.18	22.90	35.04
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	25.36	22.72	33.96
1株当たり配当額(円)	15.00	-	45.00
自己資本比率(%)	44.8	50.1	44.6

回次	第15期 第3四半期 会計期間	第16期 第3四半期 会計期間
会計期間	自平成25年1月1日 至平成25年3月31日	自平成26年1月1日 至平成26年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	7.98	8.91

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

4. 当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行い、また、平成26年1月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間のわが国経済は、政府による経済対策や金融対策を背景として円安や株高効果により、企業業績の改善や個人消費の持ち直しなど、緩やかな景気回復の兆しが見られました。

当社の属する外食業界におきましては、原材料価格や光熱費の高騰、低価格競争の激化などにより、依然として厳しい経営環境が続いております。

そのような状況の中、当社は関西圏のみならず、関東圏を中心としたKICHIRIブランドの更なる認知度向上を企図し、積極的に新規出店を進めております。また、多様化する消費者のニーズに対応するため、一層のサービス力の強化に取り組み、常にお客様から支持される店舗作りに尽力してまいります。

加えて、平成26年3月には新ブランドとなる「igu & peace」をオープンし、その他のブランドとともに成長させることに注力し、企業価値向上を図りたいと考えております。

また、今後の飲食事業及びプラットフォーム事業の一層の拡大を企図し、積極的な人材採用活動を進めております。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は、5,150百万円(前期比10.3%増)、営業利益363百万円(前期比15.1%減)、経常利益390百万円(前期比12.6%減)、四半期純利益232百万円(前期比9.5%減)となりました。

なお、当社はセグメント情報の記載を省略しているため、セグメント業績の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は3,068百万円となり、前事業年度末と比較して34百万円増加しております。

流動資産合計は971百万円となり、前事業年度末と比較して91百万円増加しております。増加の主な要因は、プラットフォーム提供先設備投資代金の回収等に伴い立替金が26百万円減少したものの、売上の伸長による現金及び預金の増加96百万円及び売掛金の増加24百万円があったこと等によるものであります。

固定資産合計は2,097百万円となり、前事業年度末と比較して57百万円減少しております。減少の主な要因は、減価償却等による有形固定資産の減少49百万円があったこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は1,529百万円となり、前事業年度末と比較して149百万円減少しております。

流動負債合計は922百万円となり、前事業年度末と比較して275百万円減少しております。減少の主な要因は、前事業年度の出店に伴う設備投資費用等の支払による未払金の減少179百万円や法人税等の納付により未払法人税等の減少76百万円があったこと等によるものであります。

固定負債合計は606百万円となり、前事業年度末と比較して126百万円増加しております。増加の主な要因は、新規借入れによる長期借入金の増加139百万円があったこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は1,538百万円となり、前事業年度と比較して184百万円増加しております。これは、第15期末剰余金配当の支払い150百万円があったものの、四半期純利益232百万円の計上に伴い利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,600,000
計	33,600,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年5月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,550,400	10,550,400	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	10,550,400	10,550,400	-	-

(注)1. 「提出日現在発行数」欄には、平成26年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

2. 当社株式は、平成26年5月8日をもって、東京証券取引所市場第二部銘柄より同取引所市場第一部銘柄に指定されております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年1月1日 (注)	5,275,200	10,550,400	-	381,530	-	341,475

(注) 株式分割(1:2)によるものであります。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 182,500	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 5,091,500	50,915	-
単元未満株式	普通株式 1,200	-	-
発行済株式総数	5,275,200	-	-
総株主の議決権	-	50,915	-

(注) 平成26年1月1日付をもって、1株を2株に株式分割しておりますが、記載数値は当該株式分割を反映しておりません。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社きちり	大阪市中央区安土町 2 - 3 - 13	182,500	-	182,500	3.5
計	-	182,500	-	182,500	3.5

(注) 平成26年1月1日付をもって、1株を2株に株式分割しておりますが、記載数値は当該株式分割を反映しておりません。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成25年7月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.2%
売上高基準	0.2%
利益基準	0.1%
利益剰余金基準	0.5%

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	455,811	552,020
売掛金	93,307	118,146
原材料及び貯蔵品	45,656	45,265
その他	286,391	257,678
貸倒引当金	2,017	2,017
流動資産合計	879,149	971,093
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,254,957	1,216,219
その他(純額)	205,948	195,410
有形固定資産合計	1,460,905	1,411,630
無形固定資産	5,968	4,169
投資その他の資産		
差入保証金	624,413	631,100
その他	64,265	51,213
貸倒引当金	648	618
投資その他の資産合計	688,031	681,695
固定資産合計	2,154,905	2,097,495
資産合計	3,034,054	3,068,589
負債の部		
流動負債		
買掛金	145,678	177,014
1年内返済予定の長期借入金	272,032	240,203
未払法人税等	122,027	45,763
賞与引当金	-	12,863
資産除去債務	-	457
その他	659,161	446,628
流動負債合計	1,198,898	922,930
固定負債		
長期借入金	332,050	471,698
資産除去債務	8,010	9,565
その他	140,400	125,532
固定負債合計	480,461	606,796
負債合計	1,679,359	1,529,726

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成26年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	380,191	381,530
資本剰余金	340,136	341,475
利益剰余金	660,162	842,074
自己株式	26,676	26,676
株主資本合計	1,353,814	1,538,403
新株予約権	880	459
純資産合計	1,354,694	1,538,862
負債純資産合計	3,034,054	3,068,589

(2) 【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	4,668,793	5,150,088
売上原価	1,194,196	1,317,272
売上総利益	3,474,596	3,832,816
販売費及び一般管理費	3,046,026	3,469,085
営業利益	428,569	363,730
営業外収益		
受取利息	159	6
協賛金収入	35,724	34,471
その他	10,715	4,864
営業外収益合計	46,600	39,342
営業外費用		
支払利息	5,755	4,619
支払手数料	1,997	1,622
上場関連費用	18,650	4,360
その他	2,270	2,204
営業外費用合計	28,673	12,806
経常利益	446,497	390,266
特別利益		
固定資産売却益	528	-
特別利益合計	528	-
特別損失		
固定資産除却損	114	-
賃貸借契約解約損	1,200	-
特別損失合計	1,314	-
税引前四半期純利益	445,711	390,266
法人税、住民税及び事業税	174,698	142,269
法人税等調整額	14,000	15,399
法人税等合計	188,699	157,668
四半期純利益	257,012	232,598

【注記事項】

(追加情報)

法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.0%から35.6%になります。

この税率変更による当社業績への影響は、軽微であります。

(四半期貸借対照表関係)

保証債務

一部の賃貸物件の保証金について当社、貸主及び金融機関との間で代預託契約を結んでおります。当該契約に基づき、金融機関は貸主に対して保証金相当額を預託しており、当社は貸主が金融機関に対して負う当該預託金の返還債務を保証しております。

前事業年度 (平成25年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成26年3月31日)
266,155千円	296,315千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)
減価償却費	204,431千円	235,506千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成24年7月1日至平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年2月8日 取締役会決議	普通株式	24,567	15.00	平成24年12月31日	平成25年3月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間（自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日）

1. 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年9月27日 定時株主総会	普通株式	50,686	30.00	平成25年6月30日	平成25年9月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

（持分法損益等）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間（自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日）

当社は「飲食事業」「通販事業」及び「コンサルティング事業」を行っております。当社の報告セグメントは「飲食事業」のみであり、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期累計期間（自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日）

当社は「飲食事業」「通販事業」及び「プラットフォーム事業」を行っております。当社の報告セグメントは「飲食事業」のみであり、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

なお、前事業年度より従来までの「コンサルティング事業」から、「プラットフォーム事業」に名称を変更しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	26円18銭	22円90銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	257,012	232,598
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	257,012	232,598
普通株式の期中平均株式数(株)	9,817,230	10,158,138
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	25円36銭	22円72銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	316,482	80,145
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を、また、平成26年1月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年5月15日

株式会社きちり

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 廣田 壽俊 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 笹山 直孝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社きちりの平成25年7月1日から平成26年6月30日までの第16期事業年度の第3四半期会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成25年7月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社きちりの平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。